

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 図画工作部会

テーマ 『つくりだす喜びを通して、豊かな心をはぐくむ』

提案概要

【研究主題】

豊かに感じ取る力を育てることを重視し、児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善
②感じ取ったことを手や体全体を十分に働かせて表現したり、描いたり作ったりする活動や鑑賞する活動を〔共通事項〕と関連させる指導と評価の一本化

○題材名と学年

「うっしてあそぼう」 第1学年

○児童の実態と題材設定

児童は、大・小様々なグループ活動を通してお互いを認め合いながら活動する姿が見られる。図工や絵を描くことが好きという児童も多く、絵の具を使うのを楽しみにしていた。そこで、表現活動のみではなく準備や片付けの仕方などの指導も重視した。そのため、作業の段取りが上手になり、子どもたち自身が作品製作により熱心に取り組む姿勢が見られるようになった。絵の具を使う学習は、「フィンガーペインティング」からスタートし、筆の動かし方や水加減で色の調節をしたり、混色に挑戦したりしながら、用具に慣れる活動を行ってきた。活動を進めていく中で子どもたちから「みんなで大きな作品を作りたい」「いろんな色をぬってみたい」「スタンプ遊びがしたい」と発想の広がりが見られ、この題材を設定することとした。さらに今回は、共同絵の具から好きな色の絵の具を自由に取り「絵の具バイキング」も同時に行い、好きな形に好きな色、好きな場所に「自由に描こう!」という学習を通し、友だちと活動しながら想像を広げ、楽しく活動できる場づくりにも考慮した。

○実践上の工夫

- ・みんなで製作できるロール紙や共同絵の具セットに加え、スタンプとなる型抜きや歯ブラシ、野菜・付箋など用具・材料を教師が準備した。
- ・材質や形、大きさなどが異なる様々な材料や用具、または、表現方法を提示したり、自由に絵の具が選べるようにとりやすく工夫したり（絵の具バイキング）するなど、児童が試しながら自分の表したいことが表現できる場を設定した。
- ・活動が広がるような広いスペース（場）で大きなロール紙を広げた。
- ・広いスペースを使用することで、友だちとのかかわりも深まり、自分の良さや友だちの良さを見つけ合う姿や一人ひとりのつぶやきや工夫を見取りやすくした。
- ・大きなロール紙を使い、活動や発想の広がりを生む工夫をした。また、自分と友だちの発想や思いの違いや良さに気づき、互いに認め合い、より考えを深められるような時間も確保し、自然と友だち同士会話が生まれるような場の設定をした。

○成果と課題

<成果>

- ・材料や用具の面白さに気付き、もっといろいろなことができないかと児童一人ひとりが意欲的だった。子どもたちの感想には、「たくさん絵の具を使って楽しかった」「友だちのスタンプとつながって嬉しかった」「たくさんあるものの中から選べて楽しかった」というものがあった。
- ・友だちと互いに交流する中でイメージが広がり、楽しんで製作することができた。
- ・別の単元においてもこの学習が生かされた。

<課題>

- ・より効果的に扱うために、児童に材料や用具の用意を提案するなどの工夫

質疑概要

- Q. 本授業後に行った「ゆめのまちさんちょうめ」のまちづくりは子どもたち同士でどう改良していったのか。また、時間数が増えたのではないか。
- A. 子どもたちが話し合いながら改良していった。まちづくり2時間、改良2時間を使い、鑑賞の時間は少なかった。
- Q. クラスによって取り組みの仕方が違ったのか。
- A. クラスによって違うが、自分の取り組みを見て同じように実践をしたクラスもあった。
- Q. 「うつしてあそぼう」から「ゆめのまち」へつなげたのが良かったが、グループの人数はどう決めたのか。
- A. 担任は決めずに、子どもたちが15分ぐらいで決めていた。
- Q. 評価は、どうやって行ったのか。
- A. 活動中の子どもの発言、つぶやきや活動の様子を書き取ったり、写真やビデオで記録し、子どもと一緒に振り返る時間をつくり、評価にいかした。(ビデオは、見た後毎回消した。)

研究協議概要

○低学年における発想の広がりを生む用具や材料の工夫について

4～5人の6グループで「材料や用具の準備をどのようにしているか」についてグループ協議を行った。

- ・材料は、いろいろあった方が子どもたちの想像力に広がりが出る。材料のプールをしておく、誰でも自由に使える。だが材料を置いておく場所がない。教室に置いておいて図工の時間だけでなく休み時間にも使えるようにする。
- ・家庭に用意してもらう場合は、学年だよりや学級便り等で呼びかける。高学年の場合は、自分でイメージできるので自分で用意しても良い。年間で見通しを持って早目に子どもたちに伝えていく事も大事である。100円均一の店でいろいろそろえる家庭が増えて学習のねらいからそれてしまうこともある。
- ・それぞれが材料を持ち寄った方が作品に個性が出て良いが、家庭差も出てしまう。家庭でも何をどう準備するのか困る。伝わるようにすることも大切だが、子どもや各家庭に持ってこられなくても大丈夫だと伝える事も必要である。
- ・2回活動時間がとれるようなら、材料を1回目は教師、2回目は子どもがそろえても良い。材料をみんなで探す(校内)のも良い。
- ・発想が先か準備が先か。何を使って良いか決める判断力を持たせることも必要だと思う。
- ・絵の具セットの使い方をじっくりできるとその後の指導がしやすい。一年生の絵の具の使用開始時期は、1学期の学校と2学期の学校がある。
- ・地域の力を活用し、木片などは材木屋さんに頼む。
- ・授業に臨む前に教師が教材研究し、教師が楽しむことが大切だ。
- ・評価については、作品から見ただけでなく、見取りや振り返りからも評価する。鑑賞については、他の学年と見合うのも良い。文章での評価は難しい場合もある。

まとめ概要

- ・場の工夫や用具の工夫・教師の声かけにより、言語活動がしっかり行われていた。
- ・子どもの困り感に対して教師はどんな指導を行うか、子どもたちの持っている能力をどうやったら、高められるか考えていきたい。そのために、「どんな活動をさせたいか」「どういう作品を作らせたいか」「この授業を通してどんな力をつけたいか」整理する必要がある。
- ・自分の作品を自分の言葉で語れる子どもを育てたい。ロール紙を使って子ども同士の交流が増えた。学校でしかできない図工をやってほしい。
- ・子どもたちに想像力を広げさせたい。教師も広げていきたい。イメージをつけさせる手立てとして、場所や空間、用具がある。また、色や形などをもとに自分のイメージも持つことでより言語活動の充実が図れる。「気に入るところはどこ？」など、教師からの声掛けも有効である。
- ・手触り、色、形をイメージする工夫、用具の使い方、対話による造形活動や過程を大切に評価の指導方法を工夫していきたい。